

## ISO/IEC JTC 1/SC 36/WG 2 協調学習環境の技術標準化

岡本敏雄 電気通信大学大学院情報システム学研究科

### ■ 協調学習とは

協調学習 (Collaborative Learning) は、インターネット・コンピューティング技術の発達によって、その形態が多様になってきている。特に、学習活動が実際の問題解決行動に繋がるためのパフォーマンス支援機能が重視されてきている。すなわち、チャットによる意見交換による学習だけではなく、各種業務遂行というリアリティを持った学習が望まれている。

このような協調学習をe-Learningシステムの中で支援するための技術基盤が探求され、同時に基盤の標準化活動が展開されている。ここでは、日本から提案している標準化案とその活動過程を紹介したい。図-1はその全体像であり、インターネット環境において、自己の学習場とグループの協調場があり、データ、情報、知識の相互伝達を支援するエージェント群、さまざまな学習リソース(資料、アプリケーション、ツール)の画面共有、操作共有、そして協調学習場を介した学習活動履歴の体系的な保存環境を示している。

ところで、筆者はWG 2の議長 (Convener) という職責を任されているが、その中には3つのプロジェクトがある。

- ① 協調学習基盤 (CW) プロジェクト
  - ② 学習者間相互作用モデル (L2L) プロジェクト
  - ③ エージェント間相互作用モデル (A2A) プロジェクト
- である。

この中で、CWとL2Lには日本からプロジェクト・エディタを出している。A2Aは韓国からである。2000年からの開始であるが、標準化というのは、各国のさまざまな思惑があり、なかなかすんなりと進まないものである。3つのプロジェクトの各エディタも随分と代わった。代わっていないのは、convenerである私だけである。何となく寂しい思いがする。企業の方は、こんなに長くかかるとは思わなかったのではと思う。これだけにかかわることができないからである。これでもうまとまると思ったとたん、ある国からクレームが出るといった繰り返しである。それも毎年2回行われる総会やWGの会議に出席せずに、文書 (Document) のレベルでクレームを付けてくる。標準化作業とはこのようなプロセスを経てなされるのであろう。

これまでの努力の中で、名前を挙げたいのは、CWプロジェクトにエディタとして貢献していただいた原さん (日本ユニシス)、L2Lプロジェクトの古賀さん (日立) と

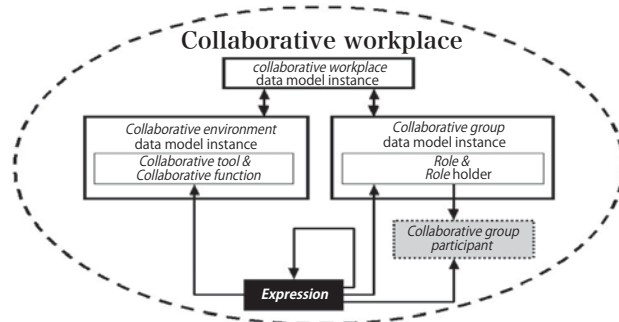


図-1 協調学習場を中心にした標準化対象としている協調活動要素

カナダのNormさん、そしてドイツのRolf教授。Rolfさんは標準化の専門家ですべてのプロジェクトにおいて、献身的なサポートをしてくれている。また私のsecretaryとして、田村先生 (上智大) が何年かサポートしてくれた。そして現在、西田先生 (大阪学院大) がサポートをしてくれている。心から感謝申し上げたい。現在、4つのドキュメントがFDISでの投票段階に入っている。各プロジェクトの対象となっている文書は、以下のものである。

### Projects

- ISO/IEC 19778 ITLET— Collaborative technology — Collaborative Workplace
  - 19778-1 : Collaborative workplace - Part 1. Collaborative workplace data model  
Project Editor : Kiyoshi Hara (Japan) Status : FCD2 (36N1426)
  - 19778-2 : Collaborative workplace - Part 2. Collaborative environment data model  
Project Editor : Kiyoshi Hara (Japan) Status : FCD2 (36N1427)
  - 19778-3 : Collaborative workplace - Part 3. Collaborative group data model  
Project Editor : Kiyoshi Hara (Japan) Status : FCD2 (36N1428)
- ISO/IEC 19780 ITLET — Collaborative technology — Collaborative learning communication Scheme
  - 19780-1 Collaborative learning communication - Part 1 : Text-based communication  
Project Editors : Norm Friesen (Canada), Akihiko Koga (Japan)  
Status : FCD2 (36N1429)

最後に、何とかこの分野で日本発の標準化提案をまとめあげたいと思う次第である。

(平成19年8月13日受付)

◎ 岡本敏雄 (正会員) | okamoto@ai.is.uec.ac.jp

1975年東京学芸大学大学院修士課程修了。同大助教授を経て、現在電気通信大学大学院情報システム学研究科教授、国際交流センター長、e-Learning推進センター長、ISO/IEC JTC 1 SC 36-WG 2議長、教育システム情報学会会長、日本情報教育開発協議会会長、e-Learning World実行委員会委員長。専門はe-Learning、知識処理システム学、情報教育、教育工学。工学博士 (東京工業大学)。